

## 〈ビジネスシステム〉

# 科目「総合実践」における 主体的・協働的な態度を育成する指導の工夫

——販売実習の取り組みに対する振り返りと課題解決を通して——

沖縄県立浦添商業高等学校教諭 宮 里 みちる

## I テーマ設定の理由

新高等学校学習指導要領第3章第3節商業科の目標では、「商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。」と示されている。職業人に求められる倫理観などを育み、主体的に学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識し、他者と積極的に関わるなどして、ビジネスの創造と発展に責任を持って取り組む態度を養うことが求められている。

科目「総合実践」の目標では、「(3) ビジネスの実務に対応する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。」と示されている。実務に即した実践的・体験的な学習活動を通して、専門的な知識・技術などを基に自ら学ぶ態度の育成、他者との信頼関係を構築して積極的に関わるができるようにすることをねらいとしている。

本校総合ビジネス科では、育成する生徒像を「ビジネス社会で活躍する生徒」と掲げ、商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、身に付けた専門性とビジネスの場におけるコミュニケーション能力を発揮し、地域社会に寄与する職業人の育成を目指している。2年生から「販売ビジネス類型」「流通デザイン類型」「会計ビジネス類型」の3つの類型に分かれ、「販売ビジネス類型」は商業の4分野のうち主に「マーケティング分野」と「ビジネス経済分野」を学習している。科目「総合実践」は、1年生での基礎的・基本的な学習を基に、2年生では商品売買業を想定した模擬取引、3年生では地域企業と連携した実践的・体験的な販売実習を取り入れている。

これまで、科目担当者間で話し合いを重ね、実習までの過程と振り返りを工夫するなど、継続的に授業改善を図ってきた。しかし、生徒にとっては販売実習そのものが目的となっており、各場面における主体的な振り返りや生徒同士の活発な話し合い、また、協力企業との継続した連携など、依然として課題がある。

そこで、日々の授業で用いる業務日誌及び実習後の振り返りシートの改善を図り、それを用いたグループワークを実践する。その振り返りを充実させることで自己の変容を自覚し、さらに他者との対話を通して自己の考えを深め広げることにより、主体的・協働的な態度の育成につながると考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

科目「総合実践」において、販売実習の場面や課題解決の取り組みで、業務日誌及び実習後の振り返りシートをグループワークに活用することで、主体的・協働的な態度を育成することができるであろう。

## II 研究内容

### 1 生徒の実態調査

#### (1) 目的

科目「総合実践」に対する興味・関心や、授業に対する取り組み姿勢について実態を把握し教材作成や単元計画の参考とする。

(2) 対象及び実施日

対 象：浦添商業高等学校 総合ビジネス科販売ビジネス類型 3 年生38名

実施日：令和 3 年 6 月 3 日（木）・6 月 4 日（金）

(3) 調査内容

- ① 科目「総合実践」に対する興味・関心について
- ② 授業への取り組み姿勢について
- ③ 進路希望や勤労観・職業観について

(4) 調査結果および考察

「販売類型を選んだ理由は何ですか」という質問では販売実習への興味・関心が最も多く、次いで将来の職業と結び付けた選択やクラス編成を意識した選択となっている（図 1）。他の類型では経験できない販売実習への興味・関心が高い生徒や、将来の進路選択を意識した生徒が多いことがうかがえる。また、本科では各類型の選択希望調査を 1 年生の 2 月頃実施し、2 年生は他の類型との混合、3 年生は類型ごとにクラスを編成している。自分自身の進路意識よりも友人との関わりを優先している生徒が全体の 16% 程度いることが分かった。

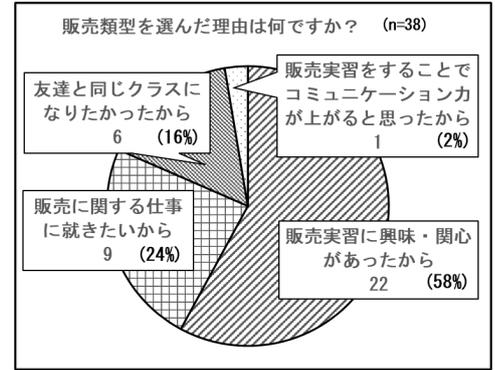


図 1 類型選択について

「総合実践の授業は楽しいですか」という質問では、「とても楽しい」「やや楽しい」と回答した生徒は 92% であった（図 2）。その理由として、「授業形態」「実習内容」「将来との関連」が挙げられた（表 1）。一方、「あまり楽しくない」「全く楽しくない」と回答した生徒も同様に、いくつか理由を挙げている。これは類型選択の段階で、友人と同じクラスになりたいという理由だけで選択したことによる影響や、販売実習に興味・関心はあったものの思い描いていた内容と現実とのギャップによるものだと考えられる。

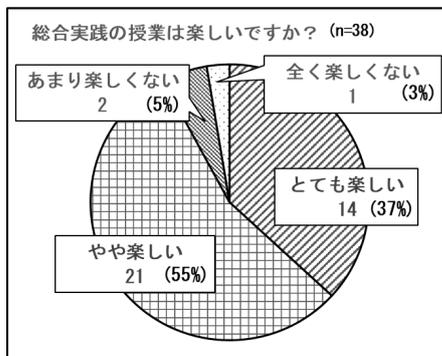


図 2 総合実践への興味・関心①

表 1 総合実践への興味・関心②

「総合実践」の授業が楽しい理由	
授業形態	・グループ活動が多い
実習内容	・座学だけでなく動きがある ・販売実習は大変だけど初めてのことで楽しい
将来との関連	・思っていたより忙しいけど楽しい ・将来必要なことを学べるから ・実際の企業との取引の経験 ・ビジネスマナーは今後に生かせる
その他	・科目「商品開発」の授業とのつながり
「総合実践」の授業が楽しくない理由	
将来との関連	・自分の将来に生かせることがあまりないと思う
授業の進め方	・身なり点検の時間が長く、授業が少ししかできない
活動内容	・やることが多い

「授業で活用している業務日誌」に関する質問では、「きちんと記入している」生徒は全体の半数であり、その理由として「振り返り」「成績」「記録」が挙げられた（図 3・表 2）。

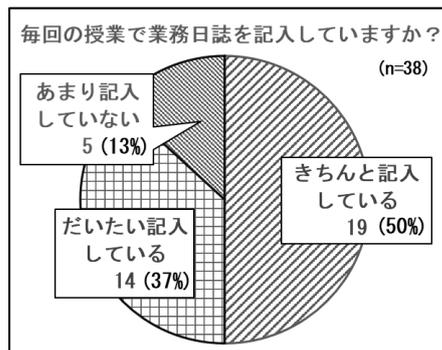


図 3 業務日誌について ①

表 2 業務日誌について②

業務日誌をきちんと記入している理由	
振り返り	・その時間に学習したことを書いて、やっていないことを書いていけば振り返れるから ・授業の反省をして、忘れないようにするため ・次の授業で生かせるように
成績記録	・書かないと成績に響くから ・今日の業務を書いておくと次の時間に早く業務に取り掛かれるから
その他	・毎回記入しないと忘れるから ・今後業務日誌を記入する機会があると思うのでそのための練習 ・2年生の授業で習慣付いているから ・当たり前のことだから

「だいたい記入している」生徒のほとんどは「記入時間がない」こと、「あまり記入していない」生徒は「書くことが多くて面倒」「書く意味が分からない」などを理由に挙げている。

さらに、「前回の業務日誌を振り返って確認しているか」の質問では、きちんと記入している生徒が必ずしも前回の確認をしているわけではないことや、記入している理由が具体的でない生徒は前回の学習内容をあまり確認していない状況があることが分かった(図4)。前回の日誌の内容を確認しない理由として「確認しなくても大体覚えている」「何を確認するのか分からない」などが多く、これらの結果から業務日誌の意義や記録の目的が生徒にとってあいまいであることが考えられる。

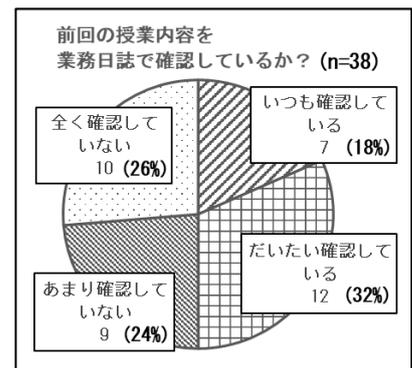


図4 業務日誌について③

現在使用している業務日誌は、「本日の業務」「メモ」「感想」「次回の予定業務」の4つの項目で構成している。業務日誌改善の参考にするため、日誌に取り入れることを検討している項目を追加し、各項目の必要性について質問をした(図5)。多くの生徒が、追加項目に対して必要性を感じていることが分かった。

また、「業務日誌は何故必要なのか」について質問した。その日の活動内容や次回の予定については、これまでも日誌に記入しているので、とても必要と答える生徒は多く、次に生かすため毎時間の授業を振り返ることや自分自身の成長のためにも必要と考えている生徒もいることが分かった(図6)。

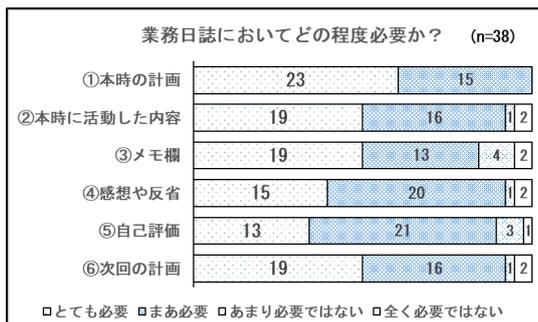


図5 業務日誌の項目について

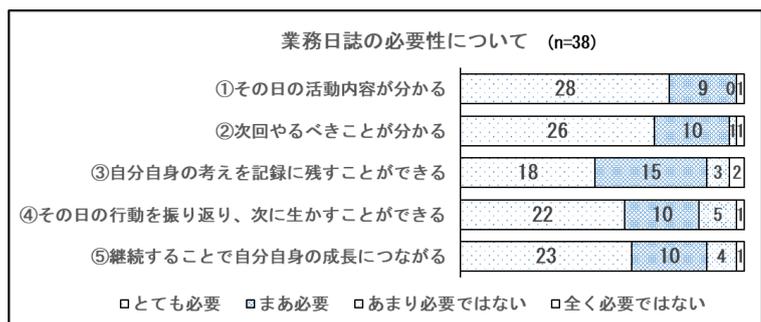


図6 業務日誌の必要性について

「グループ活動に関する」質問では、自分の意見を出している生徒が大半を占めている(図7)。「アイデアが生まれる」「協力が大切」という理由が挙がる一方で、「意見を出すことが苦手」「自分の意見が相手に伝わるか不安」という消極的な理由もあった(表3)。

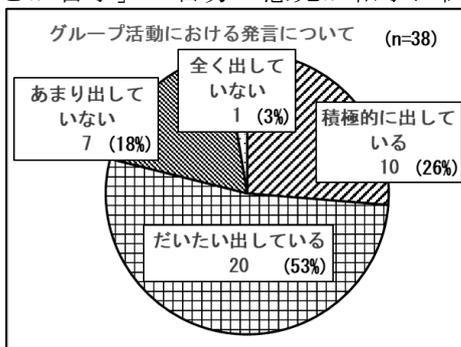


図7 グループ活動について①

表3 グループ活動について②

意見を出している理由	
・意見を言うことでアイデアが生まれるから	
・自分の意見を言ったら他の人も言ってくれる	
・グループ活動は協力が大切だから	
・みんなで話さないと考えがまとまらないから	
・みんなの意見も聞きながら意見を出したいから	
・自分だけの意見も良くないけど、人任せも良くない	
意見を出していない理由	
・自分の意見が当たっているか分からないから	
・自分の意見を出すのが苦手だからたまにしか意見を言わない	
・相手に分かりやすくちゃんと伝わっているか不安だから	

以上の調査結果から、業務日誌の内容については課題があり、改善が必要であることが分かった。また、グループ活動については、ある程度協調性を持って他者と関わっている様子はあるが、自分の意見を伝える力をさらに身に付ける必要があることも分かった。

## 2 学習教材の作成と教材を活用した授業の工夫

日々の活動から販売実習後の振り返りまでを1つのまとめりとして授業計画を立て、それぞれ

の場面に応じた学習教材を作成した（図8）。

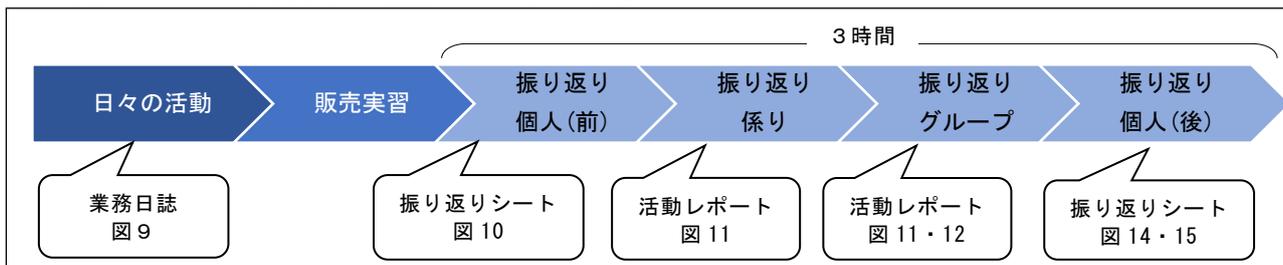


図8 授業計画

(1) 業務日誌

現在使用している業務日誌は、前時の活動内容やグループ内での申し送り事項を確認する手段としては有効である。一方で、思考を整理し考えを深める構造とはいえない。また、実態調査における生徒の回答からも、記入状況や活用方法についての課題が明らかである。よって、振り返りの意義を実感させ、活動を通して振り返りの習慣化を図るための工夫が必要であると考え、項目を「本時の目標」「本時の予定」「進捗状況」「本時の評価・振り返り」「次回の業務に向けて」「メモ」「授業担当者コメント」とし、PDCAサイクルに基づいた内容へと改善した（図9）。

(2) 各種ワークシート

① 振り返りシート（個人：前）

現在使用している振り返りシートは、項目や表示が抽象的で記入しづらい。実習当日までの過程を振り返りまとめることを通して、自らの考えを明確にし、評価・改善から次の実習につながる構成にした。項目は「本時の目標」「実習前の気持ち」「販売実習の目標」「前日・当日の仕事」「成果・課題」「改善策」「販売実習MVP」「授業担当者コメント」という内容へと変更した（図10）。

② 振り返り活動レポート（係り）

各グループは、「総務」「仕入」「広報・会場」「会計」の4つの係りで構成され、業務を分担している。個人で振り返った後、同じ業務を行った係りごとに集まり、振り返る場面を設定した。係りにしか気づかないことや次回に向けての改善策などを、各係りの視点で「振り返り活動レポート（係り）」にまとめる（図11）。記入の際には「振り返りシート（個人：前）」を参考にできるように工夫し、記入後は掲示するためにA3サイズとした。

業務日誌 (令和 年 月 日 曜日)		氏名	印
①本時の目標 <b>本時の目標</b>			
②本時の予定 (Plan)		③進捗状況 (Do)	
1	本時の予定 (Plan)	完了	未
2		完了	未
3		完了	未
4		完了	未
④本時の評価 (Check)			
④-1	身なり点検	点検者	チェック
④-2	本時の活動状況について【係りの員】	本時の評価 (Check)	
④-3	適切などジネススマー【言葉遣いや身なり】(よくできた・普通・できなかった)		
④-4	グループ内でコミュニケーションや連携 (よくできた・普通・できなかった)		
④-5	本時の振り返り (学んだこと・感じたこと・達成したこと・課題)		
⑤次回の業務に向けて (Action)			
次回の業務に向けて (Action)			メモ
授業担当者コメント <b>授業担当者コメント</b>			

図9 業務日誌

【振り返りシート】 R3 第2回販売実習 振り返りシート（個人：前） 3時間ビジネス科	
実習日	グループ
取引先名	氏名
姓	名
本時の目標	
1. 実習前の気持ち	2. 第2回販売実習の目標 (Plan)
3. 前日までの仕事・準備 (Do)	4. 当日の仕事・片付け (Do)
5. 成果 (Check)	
良かったこと	
次回の参考になること	
6. 課題 (Check)	7. どのように改善するか (Action)
グループ	グループ
良かったこと	改善するか
8. 授業担当者コメント	
MVP	

図10 振り返りシート（個人：前）

記入のヒント	
参考：振り返りシート（個人：前） 「7. どのように改善するか」	
第2回販売実習 振り返り活動レポート ( ) グループ	
4. 第3回販売実習に向けて	1. 目標や計画
改善策	参考：振り返りシート（個人：前） 「7. どのように改善するか」
成果	参考：振り返りシート（個人：前） 「8. 前日までの仕事・準備」 「4. 当日の仕事・片付け」
課題	
3. 評価	2. 実施

図11 振り返り活動レポート（係り・グループ）

③ 振り返り活動レポート（グループ）（個人用）

各係りでの振り返りの後、グループで振り返る場面を設定した。グループワークをスマー

ズに進行させるため、役割を決め、ルールに基づいてメンバー全員がグループ内で発言できるよう工夫した。様式は「振り返り活動レポート（係り）」と同様のA3サイズとした（図11）。

また、グループワークで適宜記入できるように「振り返り活動レポート（個人用）」を作成し、グループワーク終了後はルーブリックを用いた自己評価と授業の振り返りができるよう工夫した（図12・13）。グループワークを通して、身に付けて欲しい資質・能力を明記し評価内容を授業の導入で生徒と共有することで、その項目を意識した具体的な行動が期待できる。評価項目の内容については、学習指導案に記載する授業の評価規準を生徒が分かりやすい表現に変更した。教師の評価を授業担当者のコメント欄に記載することで生徒へのフィードバックを図る。

図12 振り返り活動レポート（個人用）

評価項目 (学習活動)	学習活動に即した評価規準			自己評価 (A・B・C)
	A：十分満足	B：おおむね満足	C：努力を要する	
思考判断表現	グループ内で互いの意見を交換し、比較・参考にしながら、複数の意見を関連付けたり、まとめたりのしながら、改善策を考案し、ワークシートにまとめることができた。	グループ内で互いの意見を交換し、比較・参考にしながら、改善策を考案し、ワークシートにまとめることができた。	メンバーからの助けを得ながら考えを伝え、ワークシートをまとめることができた。	
主体的に学習に取り組む態度	ルールに基づいて、スムーズに話し合いが進むように自分の役割に責任を持ち、他者の意見を尊重しながら、自分の考えを伝え、グループとしての考えをまとめることができた。	ルールに基づいて、自分の役割に責任を持ち、他者の意見を尊重しながら、自分の考えを伝えることを通じて、改善策を考案することができた。	メンバーに背中を押されワークに参加し、自分の考えを伝えることができた。	

※「振り返り活動レポート(個人用)」より「本時の自己評価」の抜粋

図13 ルーブリック評価表

④ 振り返りシート（個人：後）

グループによる振り返りの後、再度個人で振り返る場面を設定した。表面を「振り返りシート（個人：後）」とし、グループワークで他者の意見や考えを聞いて、気づいたことをまとめることができるよう工夫した。振り返りの総括後は、次回の販売実習の目標を立てることを想定している（図14）。

また、裏面には、販売実習の準備から当日に至るまでの全過程の振り返りができる「自己評価シート」を作成した（図15）。これは、田中博之（2020）によって作成された「アクティブ・ラーニング自己評価シート高等学校版」を参考にしたものである。生徒自身が日頃の

学習に主体的・協働的に取り組んでいるかどうか振り返るために活用する。さらに、生徒の自己評価と教師側の評価に乖離はないか、双方で確認できるよう教師が記入する欄を設けた。

図14 振り返りシート（個人：後）

図15 自己評価シート

### Ⅲ 指導の実際

#### 1 単元名 「第2回販売実習」 実習の振り返り

#### 2 単元の目標

- (1) マーケティング及び会計分野に関連するビジネスについて実務に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- (2) マーケティング及び会計分野に関連するビジネスにおける課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、課題への対応策を考案して実施し、評価・改善する。
- (3) マーケティング及び会計分野に関連するビジネスの実務について自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む。

#### 3 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>ア ビジネスにおけるPDCAサイクルや自己評価の効果について、実習の振り返りを通して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。</p> <p>イ 商業の既習科目の知識や技術について、実習の過程を通して総合的に活用することで、商業の学びの意義や役割を理解している。</p>	<p>ア 実習の過程における課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への改善策を考案し、評価・改善している。</p> <p>イ グループ内で成果及び課題を共有し、実習における新たな課題を見だし、科学的な根拠に基づいて、改善策を考案し、評価・改善している。</p>	<p>ア グループにおける役割について自ら学び、協働することの必要性に気づき、よりよい改善策の考案に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p> <p>イ ルールを意識した対話を通して、実習の課題について自ら学び、次回の実習に必要な改善策の考案に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p>

#### 4 指導と評価の計画（全3時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
1	<p>1 第2回販売実習を振り返る（個人：前）（係り）</p> <p>販売実習後に全過程を振り返ることの重要性を理解する。</p> <p>・第2回販売実習について、業務日誌や活動で使用した様々な資料に基づいて個人で振り返り、成果と課題を整理し、改善策を考案する。</p> <p>・各係りで、個人の課題や改善策を共有し、業務内容に基づいて改善策をまとめる。</p>	<p>知ア</p> <p>思ア</p>	○	<p>・業務日誌の記録や様々な資料を踏まえ、実習の課題を見だし改善策を考案する重要性を理解している。</p> <p>振り返りシート（個人：前）</p> <p>・個人での振り返りを生かして、係りの業務内容に関する課題について考察し、表現している。</p> <p>振り返りシート（個人：前）</p> <p>振り返り活動レポート（係り）</p>
2	<p>2 第2回販売実習を振り返る（グループ）</p> <p>販売実習の全過程を振り返り、新たな課題を発見し、改善策を考える。</p> <p>・グループで、個人・係りで整理した課題や改善策について発表し合い、自分の発言と他者の発言を区別しながら、改善策を整理する。</p>	<p>態イ</p> <p>思イ</p>	○	<p>・実習の改善策を考案する活動に、自分の考えを加え、他者の意見を調整しながら意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>行動観察</p> <p>振り返り活動レポート（個人用）</p> <p>・改善策について、他者の意見と比較しながら考案している。</p> <p>振り返り活動レポート（個人用）</p> <p>振り返り活動レポート（グループ）</p>
3	<p>3 第2回販売実習を振り返る（個人：後）</p> <p>販売実習の成果・課題・改善策に基づいて、本単元を振り返る。</p> <p>・グループワークで得られた実習の成果・課題・改善策を整理し、既習科目との関連性を踏まえ総括的に振り返る。</p>	<p>知イ</p> <p>態ア</p>	○	<p>・実習を振り返る本単元を通して、既習科目との関連性に気づき、商業の学びの意義等を理解している。</p> <p>振り返りシート（個人：後）</p> <p>・他者との話し合いを通して様々な課題や改善策に気づき、自らの考えを整理・まとめを行う振り返りの活動に粘り強く取り組もうとしている。</p> <p>振り返りシート（個人：後）</p>

#### 5 本時の学習指導

(1) 主題名 「販売実習におけるグループワークを通じた振り返り」

(2) 本時の目標

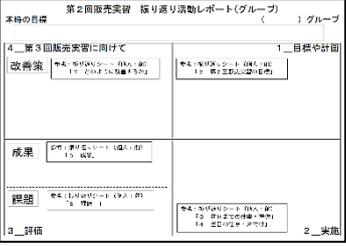
販売実習を振り返るグループワークを通して、実習過程における新たな課題を見つけ、改善策を考案できるようにする。

(3) 本時の評価規準

評価状況	学習活動に即した評価規準		
	B：おおむね満足できる	A：十分満足できる	C：努力を要する
思考・判断・表現	グループ内で成果及び課題を共有し、実習における新たな課題を見だし、改善策を考案し、評価・改善している。	グループ内で成果及び課題を共有し、実習における新たな課題を見だし、自分の考えを伝え、複数の意見を関連付けたり、まとめたりしながら、改善策を考案し、評価・改善している。	新たな課題を見だし、改善策を考案することができない。 【手立て】 振り返りシート(個人:前)を活用しながらヒントを与え、再考させる。
主体的に学習に取り組む態度	ルールを意識した対話を通して、実習の課題について自ら学び、次回の実習に必要な改善策の考案に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	ルールを意識した対話を通して、実習の課題について自ら学び、次回の実習に必要な改善策の考案に主体的かつ協働的に取り組み、他者の意見を聞きながら自分の考えを調整しようとしている。	グループワークで主体的かつ協働的に取り組もうとする意欲が感じられない。 【手立て】 グループワークを通じた振り返りの意義について再度確認する。

(4) 本時の展開

学習展開	生徒の活動	教師の活動	〔使用教具〕・使用教材 〔評価の観点〕
導入 5分	<p>(1) 個人・係りで考えた成果や課題、課題に対する改善策について、振り返りシート(個人:前)等を読み返すことで再確認する。</p> <p>(2) 提示された本時の目標を確認し、振り返り活動レポート(個人用)・業務日誌へ記入することで、目標を意識しながら活動ができるようにする。</p>	<p>(1) 前時の記述内容を紹介し、様々な意見があることを認識させ、本時のグループワークにつなげていく。</p> <p>(2) 本時の目標とルブリック自己評価を提示し、話し合いを通して自分の考えと他者の考えを比較しながら、グループでより良い改善策を考えられるよう促す。</p>	<p>〔スライド〕 振り返りシート(個人:前) 振り返り活動レポート(係り)</p> <p>〔スライド〕 振り返り活動レポート(個人用) 業務日誌</p>
	<p>本時の目標：第2回販売実習の課題について、グループで協力し改善策を考えることができる。</p>		
展開 ①	<p>(3) グループワークのルールをグループ内で互いに再確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【グループワークにおけるルール】</p> <p>①発言の順番を決めてからスタートする。</p> <p>②発言している人の意見を否定せずよく聞く。</p> <p>③ただらだと自分の意見を話さない。</p> <p>④制限時間内に全員が発言できるように工夫する。</p> </div> <p>(4) 事前に決めた役割とその仕事内容を確認し、グループワークがスムーズに進められるよう工夫しようとする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【役割】 進行・記録・タイムキーパー・発表</p> </div> <p>(5) 【グループワーク】</p> <p>活動手順に沿って、第2回販売実習について振り返り、グループにおける新たな課題を発見し、その課題に対する改善策を考えるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【活動手順】</p> <p>①計画・目標の再確認(Plan) 2分</p> <p>②各係りの業務内容(Do) 3分</p> <p>③成果と課題について(Check) 5分</p> <p>④グループにとっての新たな課題をまとめる(Check) 4分</p> <p>⑤改善策を考案する(Action) 5分</p> </div>	<p>(3) グループワークにおけるルールを確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【指導上の留意点】</p> <p>前回の振り返りのグループワークで、自分のワークシートを記録係りに渡して写させる状況があったので、(ワークシートを見ながらでも)必ず発言することを確認する。</p> </div> <p>(4) それぞれの役割について具体的に提示し、スムーズに進められるよう準備を促す。</p> <p>(5) 活動手順ごとに計時し、制限時間になると次の活動場面を指示する。主に課題に対する改善策を考える場面で時間をかけられるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【指導上の留意点】</p> <p>制限時間内に全員が発言できるようにするため、生徒が様々な形で自らの強みを生かして工夫する様子を観察し、滞っているグループにはスムーズにいくためのヒントを与えながら支援する。</p> </div>	<p>〔スライド〕</p> <p>〔スライド〕</p> <p>〔スライド〕 振り返り活動レポート(グループ)</p> <p>【態：総括的評価】 粘り強い取組を行おうとする側面 <b>行動観察</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>グループワークの様子を、行動観察シートを用いて、4名の教師で評価する。</p> <p>見取りの視点</p> <p>①役割に対する責任感</p> <p>②課題解決に向かう粘り強い姿勢</p> <p>③周りへの配慮</p> </div>

<p>25分</p>	<p>※記録は「振り返り活動レポート(グループ)」に発言を記録し、まとめる。</p>  <p>※発表者は、グループで見いだした新たな課題とその改善策について、発表できるように内容を精査してまとめる。</p> <p>※話し合いの合間を見て、それぞれが「振り返り活動レポート(個人用)」に、他者の意見や気づいたことをまとめていく。</p> <p>※記録を終えた「振り返り活動レポート(グループ)」をマイボードにはさみ、発表に備える。</p>	<p>※「振り返り活動レポート(グループ)」は、教室に掲示し、全グループが確認できるようにすることを予告し、丁寧にまとめることを促す。</p> <p>※発表する内容を示し、発表者が準備できるようにする。</p> <p>①成果と課題 ②課題に対する改善策</p> <p>※「振り返り活動レポート(個人用)」には主に他者の意見と、グループでまとめた内容を記入させることで、前時の「振り返りシート(個人:前)」にまとめた個人の考えと比較できるようにする。</p> <p>【指導上の留意点】 同じ意見や異なる意見など、様々な意見を関連付けながら、あらたな課題を見だし、改善策を考案する思考の過程が分かるように、記入方法について例を挙げる。</p>	<p>①～③の行動項目をもとに、 B: おおむね満足 A: 十分満足 C: 努力を要する で評価し、授業後に各教師の行動観察シートを擦り合わせる。</p> <p>【思: 形成的評価】 振り返り活動レポート(個人用) 新たな課題を発見し、その改善策を考案する過程で、どのように思考の足跡を記入しているかをA～Cで評価する。 B: グループでまとめた記載がある A: 自分の意見と他者の意見を比較したり、関連付けている記載がある C: 話し合いや思考の記載がない</p>
<p>展開 ② 10分</p>	<p>(6)-1 第2回販売実習の成果及びグループの新たな課題、課題に対する改善策について、グループワークで話し合った内容を発表する。(2グループ) ※発表終了後は、マイボードを教室前方のホワイトボードに掲示する。</p> <p>(6)-2 発表を聞く時は以下の内容に留意し、自分のグループと比較することや発表する際の参考にする。</p> <p>【発表を聞く時のポイント】 ①成果や課題のポイントはどこか。 ②課題を解決できる改善策になっているか。 ③自分のグループとの違いは何か。 ④発表態度についてはどうか。</p>	<p>(6) 発表開始前に、聞き手の立場に立った発表を意識することを全体に促す。また、聞き手は自分のグループと比較しながら、メモを取りながら聞いても良いことを伝える。</p> <p>【指導上の留意点】発表方法については、あらかじめヒントを用意しておく、なるべく生徒の創造性を尊重し、支援が必要だと判断した場合にヒントを提示する。</p> <p>※残りのグループは次回発表することを予告する。</p>	<p>【マイボード】 振り返り活動レポート(グループ) 振り返り活動レポート(個人用)</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>(7)-1 本時の活動の流れを振り返り、グループワークを通して、新たな課題を見つけ、その課題に対する改善策を考案することができたか、自己評価を行う。</p> <p>(7)-2 グループワークを通して、新たな課題を見だし、改善策を考える活動を振り返り、振り返り活動レポート(個人用)の「本時の振り返り」欄に記入する。</p> <p>(7)-3 業務日誌への記入(本時の評価)グループワークに関することや他のグループの発表について発表を聞く時のポイントに沿って振り返る。</p> <p>(8) 次回は、残りのグループの発表と、個人で再度第2回販売実習を振り返る活動であることを確認し、次回の業務に向けての考えをまとめる。</p>	<p>(7)-1 ルーブリック評価の記入例を示し、本時の活動を自己評価できるように促す。</p> <p>(7)-2 グループでの話し合い活動について、気づいたことや感じたことを振り返り活動レポート(個人用)の「本時の振り返り」欄に記入することを指示する。</p> <p>(7)-3 業務日誌の「本時の振り返り」欄には、主に他のグループの発表から気づいたことや自分のグループと比較して感じたことを記入することを指示する。</p> <p>(8) 次回が単元最後の授業になることを伝え、活動内容を確認し、業務日誌の「次回の業務に向けて」欄に記入することを指示する。</p>	<p>【態: 総括的評価】 自らの学習を調整しようとする側面 振り返り活動レポート(個人用) グループワークを通して、互いの考えを基に新たな課題を発見し改善策を考案するために、主体的・協働的に取り組めた記載があるかをA～Cで評価する。 B: 主体的・協働的な取り組みの記載がある A: 他者の考えを踏まえ自分の考えを調整しようとするなどの主体的・協働的な取り組みの記載がある C: 主体的・協働的な取り組みの記載がない</p> <p>業務日誌</p>

## 6 検証授業の様子

第2回販売実習を振り返る全3時間の検証授業を行った。1時間目の個人で振り返る授業では、スライドでヒントを与えながらワークシートにまとめさせた(図16)。次に「目標」「業務内容」「成果・課題」「改善策」を4色の付箋紙に書き写させ、係りごとの話し合いに活用させた。公開授業にあたる2時間目はルールに基づいたグループワークの実践(図17)、3時間目は個人で販売実習を振り返り、まとめさせる授業を行った。スライドの指示に沿って落ち着いて考えながらワークシートへ記入している様子や、スムーズに進行できるように進め方を確認しながら話し合う様子など、生徒自らが工夫して活動に取り組んでいる姿が見られた。

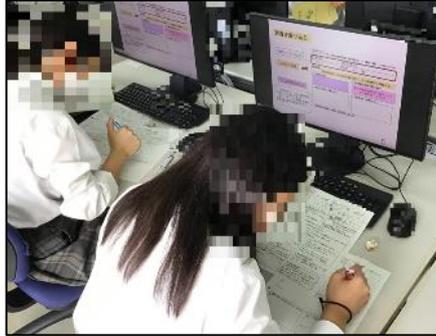


図 16 個人による振り返り

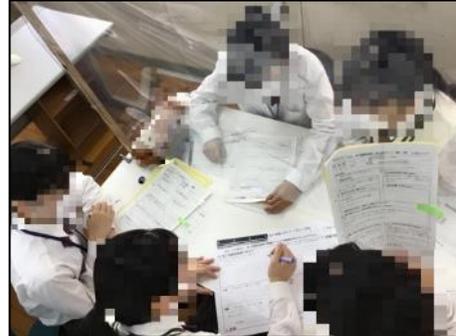


図 17 グループワーク

## IV 研究仮説の検証

本研究仮説「改善した業務日誌の活用や、各種ワークシートを用いたグループワークの実践により販売実習活動を通して主体的・協働的な態度が身に付いたか」について、業務日誌及び各種ワークシート、グループワークに関する生徒アンケートや記述内容により検証を行う。

### 1 業務日誌の有効性について

改善した業務日誌は第2回販売実習に向けて準備が始まる9月中旬の授業から取り入れた。

#### (1) 生徒アンケートによる検証

業務日誌を構成している項目のうち必要だと思う項目について、「本時の振り返り」と回答した生徒が事前アンケートと比較すると増加していることが分かった(図18)。また、「PDCAサイクルに基づいた業務日誌の記入を通して、自分自身を振り返り、学習活動を自己評価し主体的に取り組む姿勢が身についたと思いますか」という質問について「とても思う」「やや思う」と回答した生徒が全体の95%であった(図19)。

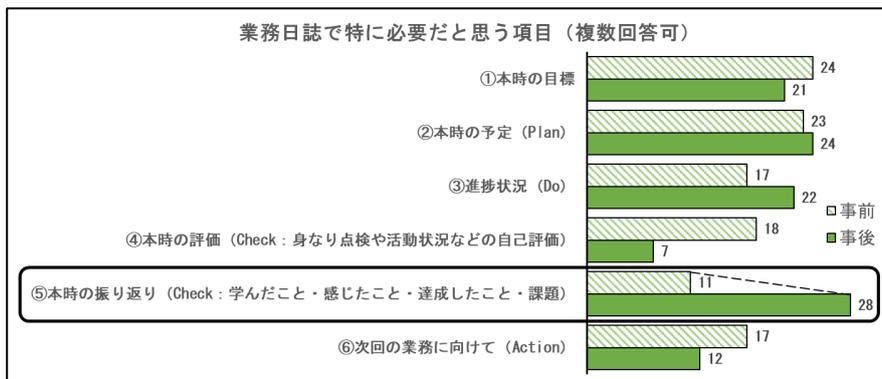


図 18 業務日誌の項目について

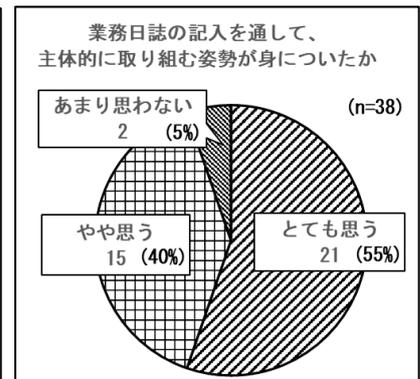


図 19 業務日誌について

業務日誌を活用しながら、見通しを持って実習に取り組むことができた生徒は全体の92%であり(図20)、また、業務日誌を「きちんと記入している」理由については、事前アンケートと比べ内容がより具体的となった(表4)。このことから、業務日誌の活用を通して、販売実習の意義を見だしている生徒が多いことが分かった。一方で、「授業の中で業務日誌を書き終えることができない」と回答している生徒が依然として多く、記入したくても業務に追われ

毎時間の振り返りが十分にできていないことが分かった。

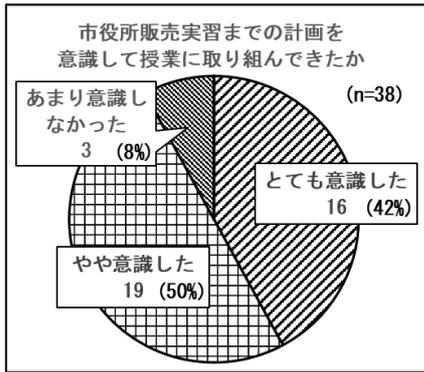


図 20 実習計画について

表 4 業務日誌について

業務日誌をきちんと記入している理由	
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日記入することで、どこが良かったのかどこが悪かったのかを考えることができるから</li> <li>その日の振り返りをし、何ができていないか、次の時間何をすべきか分かるように</li> <li>前回何をやって、前回何ができなかったのか分かるように</li> <li>次の業務に生かせるようにするため</li> </ul>
記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間かいておかないと自分がいつ何をしたのか分からなくなるから</li> <li>次回の業務の時にすぐに続きから取り組めるように</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>きちんと書かないと評価として入らないから</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間記入の時間があるから</li> </ul>

(2) 業務日誌の記述による検証

生徒の記述内容を、第1回・第2回の販売実習を振り返るグループワークを行った日と比較してみるとより具体的に記入できるようになっていることが分かる(図21)。その時間の活動内容や感想だけでなく、他のグループの振り返り内容と比較することにより、改めてグループの成果や課題について気づきをまとめている。

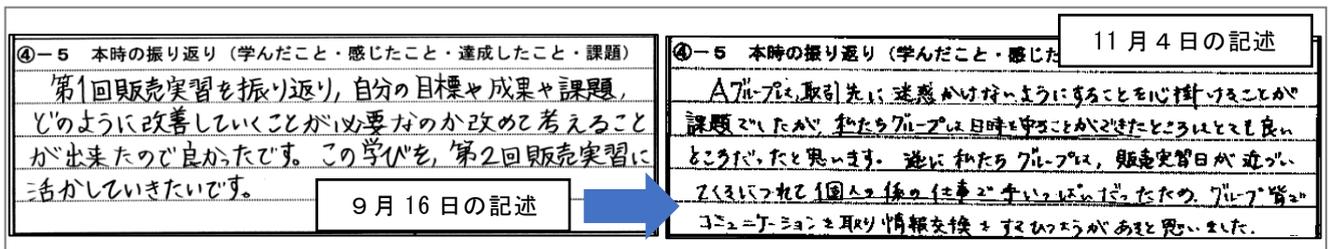


図 21 生徒Aの業務日誌の記述より

2 各種ワークシートを用いた販売実習の振り返りについて

生徒アンケートより、ワークシートを活用したグループワークの必要性について、「とても思う」「やや思う」と回答した生徒は97%であった(図22)。その理由について、グループワークを通してそれぞれの生徒が感じた有効性を挙げている(表5)。

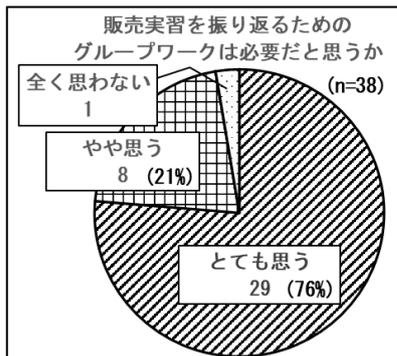


図 22 グループワークについて①

表 5 グループワークについて②

グループワークが必要だと思う理由	
・自分と相手の(グループ)成果や課題は違ったりすることもあるから。いろいろな意見を聞くことで、自分で気づけなかった課題が出てくるので必要だと思う	
・それぞれの意見をグループで共有し、グループとしての振り返りを行うことで評価につながり、必ず次に生かすことができると思うから	
・どんなことが足りていなかったのか、自分の動きが周りの人に迷惑をかけていなかったか確認できる。次また同じ失敗をしないように改善策を考え、工夫できる	
・みんなで話し合うといろんな意見が聞けるので自分の考えが変わったりして、いろいろな方向から物事を考えられるようになったから	
・達成感をみんなで共有することで、次に生かすため	

また、グループとしての新たな課題の発見、それに対する改善策について「とてもできた」「ややできた」と回答した生徒は92%となり、グループで振り返ることに目的をもって取り組めたことが分かった(図23)。

さらに、グループワークで良かった点について、「コミュニケーションが増えたこと」「意見がまとまったことによる達成感」「次の実習に向けての目標ややるべきことをみんなで確認できたこと」などが挙げられた(表6)。

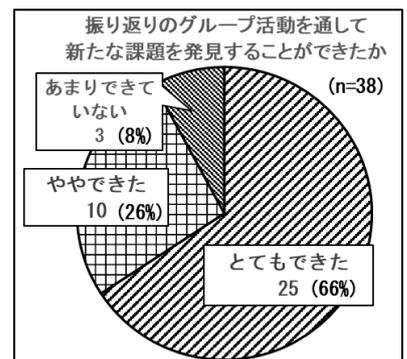


図 23 グループワークについて③

うまくいかなかった点は、「制限時間が短く十分に話し合いができなかったこと」「全員が具体的に意見を出し合えるようにするための環境作り」「スムーズに進行するための工夫が必要であること」などが挙げられた。これまではグループワークをすることが目的になりがちであったが、販売実習を振り返り今後さらに充実させていくための手段として認識することで、グループワークの意義やメリットを感じることができているとかがえる。

表6 グループワークで良かった点・うまくいかなかった点

良かった点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・もともとコミュニケーションが少ないグループだったので、グループワークをきっかけに<u>コミュニケーションが増えた</u></li> <li>・成果を発表する時は達成感が湧いてきて楽しいと思った</li> <li>・自分では思いつかない事や、みんなの考えをまとめたりする時が楽しかった</li> <li>・他の人が感じた成果や課題を知ることができたので嬉しかったし、課題は改善していこうと思えたところ</li> <li>・お互いの意見を出し合い、それを話し合っ一つ意見にすることが難しかったけど、しっかりまとまった時が楽しかった</li> <li>・自分では気が付かなかった成果や課題を知ることができたこと、次の目標ややるべきことをみんなで確認できたこと</li> <li>・グループとしての課題についてみんなの意見が一致したので、次はその課題を改善しようと思った</li> </ul>
改善して欲しい点やうまくいかなかった点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと具体的に意見が言えたら、もっといいグループワークができたと思う</li> <li>・伝えたいことは理解できるけど、文章が多いと記録係が書くのが大変なので、<u>文章を簡単に</u>作って伝える</li> <li>・意見をまとめることはできたけど、タイマーが鳴り終わるまでに終えることが少なかったのもう少し時間を長くして欲しいと思った</li> <li>・前の時間に長い時間をかけて個人でグループや個人の反省を書き出したのに、グループワークの時間が少なくてゆっくり書きまとめることが出来なくて悔しかった</li> <li>・自分の考えていることを伝えるのが苦手な方もいるので、みんなが意見を言いやすい環境づくりが難しいと思った</li> <li>・自分の意見を出せなかった</li> </ul>

### 3 主体的・協働的な態度の育成と評価について

#### (1) 生徒アンケートより

日頃からグループ活動で心がけていたことについての質問では、「他者の意見を取り入れたり自分の意見と比較すること」「グループ全体の進捗状況を確認後にその日の目標を設定すること」「情報共有を意識し意見をまとめながら試行錯誤すること」などが挙げられた(表7)。また、グループの一員としてどのように他者と関わっていきたいかについて、「他の人が困っていたら、アドバイスをし助ける」と回答した生徒が事前アンケートと比較すると増加していることが分かる(図24)。これは、グループによる学習活動をこなしていく中で、人との関わりが増え、必要性を感じた生徒が大幅に増加したと推測できる。

このような生徒の回答から販売実習の取り組みや実習後の振り返りを通して主体的・協働的な態度の育成が図られていることが分かった。

#### (2) 各種ワークシートの記述より

全3時間のワークシートの記述内容を前後で比較すると、成果や課題がより具体的になり、

表7 話し合いで心がけていたこと

グループ活動や話し合いで心がけていたこと(主:主体的、協:協働的)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人に今日の業務内容や日程を確認してから計画することを意識していた(主)</li> <li>・他の人の意見を聞いて納得したことがあれば自分の考えに取り入れるようにしていた(主)</li> <li>・他の人の意見を聞いて自分の意見と比較していた(主)</li> <li>・相手が納得するように話している(協)</li> <li>・良いと思った意見には「いいね」などと共感していた(協)</li> <li>・お互いの今日の業務内容や、期限が決まっている業務について情報共有を意識していた(協)</li> <li>・みんなの意見をまとめて(協)、試行錯誤しながら進めていた(主)</li> <li>・自分から積極的に他の人ができていないところを「こうしたほうがいいのではないか」(主)、他の人がどう考えているか意見を聞くようにした(協)</li> </ul>

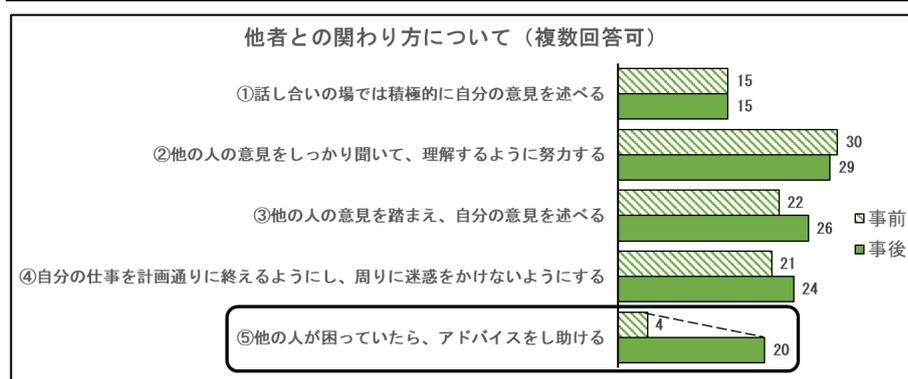


図24 他者との関わり方について

これは、グループによる学習活動をこなしていく中で、人との関わりが増え、必要性を感じた生徒が大幅に増加したと推測できる。

協働的な取り組みの必要性について自分の考えを整理することができている（図25）。グループワークで他者の考えを聞くことを通して気づきが生まれ、次の実習に対して主体的・協働的に粘り強く取り組もうとしている様子が見えてくる。

5 成果（良かったこと・※） 個人 電話、メールでのやりとりをとお互いのやりとりができた グループ 最後のハートは、バリエーションを変えてみたが、みんなと協力した		1 時間目：振り返りシート（個人：前）	3 時間目：振り返りシート（個人：後）	
6 課題（うまくいかなかったこと）<check> → 7 どのように改善するか<action> 個人 連絡が通じた時間 グループ 作業のやりとり		個人 事前に確認 グループ 前もってグループを話し合う	1 成果 参考：振り返り活動レポート（個人用） 3_評価：成果 みんなが役割も決めて仕事を進めることができた。リーダーを中心に話し合いも活発に行なった。	
2 時間目：振り返り活動レポート（個人用）		2 課題 → → → → → → 参考：振り返り活動レポート個人用 3_評価：課題 1人の人間に頼りすぎて、全然仕事が進まなかった。1人1人への声かけもできなかった。	どう改善したら良い？ 参考：振り返り活動レポート（個人用） 4_第3回販売実習に向けて 1人1人の仕事に対する責任感をもっと（後）確認したうえで役割分担を行う。	
本時の振り返り 思ったより意見がとちがって良い話し合いができた。 <u>人まかせにせず自分から意見を言う。</u>		3 第2回販売実習の振り返り 参考：（これまで学んできた商業の科目をどのように活用したか、係りの仕事に対して責任を担うことができたか、組織として協働することはなぜ必要だろうか、など） これまでのグループ活動で、団体会活動するこの楽しさをもっと感じました。 <u>1人の人間に仕事を任せると、みんなと協力して仕事を進めるのは、仕事に対する責任感、スピード感、やり取りの面で変わってくることもよく理解できなくて、やはりグループ活動では、団結力の大切だと思いました。1人はみんなのために、みんなは1人のために、の気持ちをお互いにかかっています。</u>	粘り強さ	粘り強さ
気づき		気づき	粘り強さ	

図 25 生徒Bの記述より

(3) ワークシートの記述内容と行動観察による評価より

検証授業のグループワークにおいて、「主体的に学習に取り組む態度」を学習指導案の評価規準に沿って、ワークシート「振り返り活動レポート（個人用）」の記述内容と「行動観察シート」を用いた行動観察で評価を進めた。

① 振り返り活動レポート（個人用）

本時を振り返る記述内容で「自らの学習を調整しようとする側面」を評価した。

生徒C：「おおむね満足できる」状況（B評価）

他者との意見の相違に気づき、共有することで次の実習をより良いものにしていきたいという姿勢が見られることからB評価と判断した（図26）。

生徒D：「十分満足できる」状況（A評価）

グループ全体の方向性を整理しまとめるため、自分の考えを調整しようとしたり次の実習に向けて主体的に考え取り組もうとする積極的な姿勢が見られることからA評価と判断した（図27）。

本時の振り返り

個人で思っていた事を、グループのみんなと確認すること、思っていた事を初めて聞くことができた。ほんのり点が分かった（3）したのよりレベルアップした実習を次回できると思っました。

気づき

次の実習への姿勢

本時の振り返り

グループをい、第3回販売実習に向けての課題を話し合うこと、1人1人の意見が皆話し合おうと思う。たまに気が振ってしまう時もあると思うが、その時はグループで目標を再確認し再スタート

自分の考えを調整

積極的な姿勢

図 26 生徒Cの記述より

図 27 生徒Dの記述より

## ② 行動観察シート

行動観察は複数の科目担当者で行うため、事前に評価項目について話し合いを重ね、「行動観察シート」を作成した(図28)。授業終了後に科目担当者間で擦り合わせ、見取りのポイント①～③に基づいて「粘り強い取組を行おうとする側面」を評価した。

見取りのポイント
○次の点に注意しながら観察し、+ (特に良い) - (改善が必要) を記録する。
①グループワークにおける役割に責任を持って、協力的に取り組もうとしている。
②進行がうまくいかない場合は、一旦中断してお互いに話し合う内容を確認したり、教師や他のグループに質問するなど、解決に向けて粘り強く取り組もうとしている。
③周りの意見をしっかり聞き、批判せずに、さらに発展させようとしている。
評価
A: 積極的な行動やグループを活かそうとする行動が目立っており十分満足できる。
B: おおむね適正な行動で、グループワークの目的が達成できている。
C: グループワークには参加しているが改善を要する行動が目立つため、努力を要する。

表8 2つの評価の組み合わせ

自らの学習を調整しようとする側面 【振り返り活動レポート(個人用)】	A	B	A	A
	B	B	B	A
	C	C	B	B
	C	B	A	
粘り強い取組を行おうとする側面 【行動観察】				

出典：文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 2021 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 高等学校 専門教科 商業」

図28 行動観察シート (一部抜粋)

以上を踏まえ、実際の活動の中で2つの側面は別々ではなく相互に関わり合いながら現れるものであることから、最終的に「振り返り活動レポート(個人用)」の記述内容と行動観察の組み合わせからA～Cで評価した(表8)。2つの側面の評価は乖離していないことが理想であるため、見取りについては今後も工夫を重ね留意する必要がある。

## (4) 自己評価シートより

第3回販売実習後の「自己評価シート」には自己分析の欄を付け加え、第1回・第2回販売実習の自己評価と教師側の評価を踏まえ、自己分析を記入させた。生徒の記述内容から、日頃の学習活動を客観的な視点から評価することで、自分自身の活動状況や目標に対する達成状況を認識することができたとうかがえる(表9)。評価項目の内容によって、生徒の学習意欲や学習効果を高めることが期待できるため、今後は、学習活動をどのように進めていくか見通しを持って取り組むことができる「自己評価シート」の工夫改善が必要である。

表9 自己評価シートの記述より

自己分析の記述内容
<p>【客観的:自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>販売実習を通してできるようになったことが増えた。自分のアイデアを実行して成果となったり時間の使い方ができるようになった。もっと疑問を出せるようにしたい</li> <li>企業と会議をするたびに、自分の発言に自信を持つことができたので、発言力が成長したと思う</li> <li>自己決定力の評価が低い。これは自分を低く見ている、自信がないということだと思いました</li> </ul>
<p>【客観的:教師側の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先生からの評価で、もっと自信を持って良いことが分かった。誰かに評価をつけてもらい、それを知ることができたので嬉しい</li> <li>前回の先生の評価で自己成長力が低かったため、今回も自分はまだまだだと感じた</li> </ul>
<p>【主体的】【見通し】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>創造力の評価が低いので上げていきたい。自分で考えたりするのが苦手な人が任せられてそれに従って仕事をする事が多かったため、これからは少しずつ自分の考えを持つようにしたい。</li> <li>自分の苦手なところや反省点を意識して頑張った</li> <li>前回の反省をちゃんと生かして販売に取り組むことができた</li> </ul>

## 4 まとめと考察

本研究を通して、学習活動「販売実習」において主体的・協働的な態度を育成する手立てとして、PDC Aサイクルに基づく「業務日誌」や「個人及びグループで販売実習を振り返る活動」が有効であることが分かった。

全ての実習(第1回～第3回)を終えた後、販売実習を通して学んだことを卒業後どのように生かしていきたいかを記入させた(表10)。多くの生徒が身に付けたことを具体的に認識することができ、学んだことを将来に生かそうとする意欲や姿勢が見られた。このことから、地域企業と連携した「販売実習」そのものが目的化することなく、生徒が学びの意義を実感し、いずれ就職する将来につなげることができていることが分かった。

表 10 販売実習の取り組みを通して

何を学んだか・どんな力が身に付いたか	卒業後(将来)どのように生かしていくか
<b>【主体的な行動】</b> ・気づいたことを行動に移す力 ・話がまとまったらすぐに行動に移し、継続しあきらめないこと ・自分で考え、行動する力 ・次にするべき行動を考える力が身に付いた	・会社や顧客のために自分に何ができるか考えていきたい ・どんなに忙しくてもグループで協力し、困っていることがあれば手伝う ・大学進学後も、インターン研修先等で生かしていきたい
<b>【協力・協調】</b> ・自分と他人の意見をまとめることができるようになった ・協力して活動することが何よりも大切ということ ・一人でやろうとするのではなく、皆で協力することで、良い商品、良い環境、良い結果につながることに ・みんなで1つの目標に向かって取り組むことの難しさ	・自分の意見だけでなく、他人の意見を聞いてたくさんの意見を参考にして行動できるようにしたい ・どんなにきつくても、同じ夢に向かう仲間と協調性を生かして頑張っていきたい ・就職したら1人で働くわけではないので、他人と協力して良いモノを作りたい ・理学療法士は、患者さんと協力してリハビリを行っていくのでそういった部分に生かしていきたい ・私が目指している職業はお客様の安全とサービスの提供なので、従業員で協力してより良いサービスをお客様に安心して提供できたらいいと思う ・仕事では一人一人の働きが全員の働きにつながるから、周りを見て視野を広く行動していきたい
<b>【振り返り】</b> ・グループで振り返り、改善していくことで、実習がうまくいくこと ・振り返って改善することの大切さ	・意見が異なる人と仕事する時にも、積極的にコミュニケーションを取っていきたい ・良いモノを作るために、時間調整やうまくいかなかった時の振り返りを必ずできるようにしたい
<b>【コミュニケーション】</b> ・電話での話し方やメモの取り方が一番身に付いた ・電話越しでの言葉遣い、コミュニケーション力	・進学する専門学校でも実習があり、仲間との話し合いや接客時に学んだことを生かしていきたい ・保育の道に進むので、もっとたくさんの人と出会い、いろんな個性を知って、どんな人とも話せるようになりたい
<b>【その他】</b> ・計画通りに物事はうまくすすまないこともあるということ	・職場で1日のスケジュールを確認したあと、何かトラブルがあって計画通りにいなくても臨機応変に対応したい

## V 成果と課題

### 1 成果

- (1) 業務日誌の記入の習慣と販売実習を振り返る活動の中で、P D C Aサイクルを取り入れることにより、実習の成果・課題・改善策を考える手立てとなった。
- (2) 販売実習を振り返る活動で、個人→係り→グループ→個人という流れを踏まえることで、生徒の気づきがより充実したものとなり、新たな課題を見つけ改善策を考えることができた。
- (3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、振り返り活動レポート（個人用）を踏まえた「自らの学習を調整しようとする側面」、行動観察を踏まえた「粘り強い取組を行おうとする側面」を組み合わせた評価方法を、科目担当者間で共有することができた。

### 2 課題

#### (1) 教材の改善と指導の工夫

##### ① 業務日誌

生徒のアンケートより、「授業時間内に業務日誌を書き終えることができない」という意見が多く、毎時間の確実な振り返りの時間設定について科目担当者間で話し合う。

##### ② 各種ワークシート

教師が記入して欲しい内容やその意図が伝わっていない記述内容があったので、記入する際の指示に工夫が必要である。

#### (2) グループワークにおけるタイムマネジメントの改善

生徒のアンケートより、「グループワークの時間が短い」という意見があった。販売実習を振り返る場面だけではなく、普段の授業において時間制限を設けたグループ活動を習慣づけるなど、より効率良く充実した話し合いができるよう工夫改善が必要である。

## 〈参考文献〉

- 西村修一・笠木秀樹 2021 「商業科教育法－理論と実践－」 東京法令出版
- 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 2021 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 高等学校 専門教科 商業」
- 田中博之 2020 「『主体的・対話的で深い学び』学習評価の手引き」 教育開発研究所
- 日本商業教育学会 2019 「商業科教育論 21世紀の商業教育を創造する」 実教出版
- 田村学 2018 「深い学び」 東洋館出版社
- 文部科学省 2018 「高等学校学習指導要領（平成30年7月告示）解説 商業編」
- 文部科学省 2018 「高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）」
- 岡村拓朗 2017 「自分を劇的に成長させる！PDCAノート」 フォレスト出版
- 澤井陽介 2017 「授業の見方『主体的・対話的で深い学び』の授業改善」 東洋館出版社
- 小林昭文 2016 「図解 アクティブラーニングがよく分かる本」 講談社
- 小林昭文 2015 「アクティブラーニング入門」 産業能率大学出版部